



TITLE:

表紙・まえがき・目次

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・まえがき・目次. 京都大学附置研究所・センターシンポジウム: 京都からの挑戦 (第12回) 「地球社会の調和ある共存に向けて」 自由風格(フリースタイル)、京大--報告書-- 2017, 12

ISSUE DATE:

2017-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227529>

RIGHT:

京大

自由スタイル
風格、

京都からの挑戦

— 地球社会の調和ある共存に向けて —

第12回 京都大学 附置研究所・センターシンポジウム

日時 2017年3月11日(土)
10:00~17:10
場所 石川県文教会館

報告書

京都大学附置研究所・センターシンポジウム

京都からの挑戦（第12回）

報告書

地球社会の調和ある共存に向けて



まえがき

京都大学研究連携基盤主催のシンポジウム「第12回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都からの挑戦―地域社会の調和ある共存に向けて」を、平成29年3月11日（土）、金沢市の石川県文教会館において開催しました。

本学の附置研究所・センターは、相互連携に基づいて学際的な共同研究を推進するとともに、研究成果の社会発信のために、平成17年度から26年度まで10年にわたり、「京都からの提言 21世紀の日本を考える」をメインテーマに掲げて、全国各地の政令指定都市でシンポジウムを開催してきました。平成27年4月、本学の将来構想（WINDOW 構想）の柱の一つである「独創的な先端研究・融合研究の推進による学術・社会のイノベーションの創出」のもと、附置研究所と研究センターの強み・特色をさらに伸ばすとともに、異なる視点を持つ研究者の知を結集させる異分野融合・新分野創成を図ることを目的として、「京都大学研究連携基盤」(Kyoto University Research Coordination Alliance: KURCA)が設置されたことを契機に、このKURCAがシンポジウムを主催することになり、メインテーマを「京都からの挑戦―地域社会の調和ある共存に向けて」と改めて、新しいシリーズをスタートさせました。その第1回（通算第11回）は東京で開催しましたが、本学の研究成果をこれまで以上に積極的に発信すべく、以後は地方中核都市を会場とする方針を定め、第2回のサブテーマを「自由風格、京大^{フリースタイル}」として、まず金沢市で開催しました。本報告書は、その記録をまとめたものです。

3部構成をとった本シンポジウムは、山極壽一京都大学総長の挨拶で始まり、午前の第1部「生きる場の風景」では、伊勢武史准教授（フィールド科学研究教育センター）の「人はなぜ、森で感動するのか」、木庭啓介教授（生態学研究センター）の「森林の『メタボ化』を診断する」、中西嘉宏准教授（東南アジア地域研究研究所）の「地域研究で考えるリアルなアジア」、午後の第2部「神は細部に宿り給う」では、朝長啓造教授（ウイルス・再生医科学研究所）の「ウイルス化石が語る生命の進化」、吉岡洋教授（こころの未来研究センター）の「芸術とはどんな〈出来事〉なのか」、休憩を挟んだ第3部「天地玄黄、宇宙洪荒」では、宗林由樹教授（化学研究所）の「生命を支える海の微量元素」、井岡邦仁教授（基礎物理学研究所）の「ブラックホールだらけの宇宙」と題する講演を行いました。いずれの講演も講師自身の、研究者としての姿勢や情熱のすばらしさ、地道な研究活動とそれに基づく知見や発見の奥深さに富んだものでした。それゆえ当日の参加者（596名）の反応も活発で、非常に多くの質問が寄せられました。

またパネルディスカッションでは、「地上にもともと道はない」というテーマのもと、山極総長、大志万直人教授（研究連携基盤長）、研究連携基盤の重要な活動である「未踏科学研究ユニット」4部門のユニット長一佐々木節教授（基礎物理学研究所）、湯本貴和教授（霊長類研究所）、梅澤俊明教授（生存圏研究所）、原正一郎教授（東南アジア地域研究研究所）

一の6名が、吉川左紀子教授（こころの未来研究センター）をコーディネーターとして、「未踏科学研究」の意味するところや、各ユニットのユニークな活動を紹介するとともに、7つの講演も含めた京都大学の研究活動全体の魅力について語り合い、とりわけ高校生を中心とする若い世代に対して、自らの行動を通じて道を切り開く面白さや大切さをアピールしました。最後に湊長博京都大学理事が、研究ならびに教育において本学が果たすべき役割を簡潔に述べて締めくくりました。

当日の参加者の4割にあたる約250名の方々からアンケートの回答をいただきましたが、講演内容に関しては、テーマの面白さに興味を惹かれたという感想のほか、「日常や仕事について少し異なった視点から物事を考えられるようになればいい」、「出口が見えていない試みが研究の醍醐味、という言葉に勇気をもらった」といったコメントに、今後のシンポジウム開催に向けて大きな手応えを感じました。シンポジウムの構成や運営についても様々なご意見を賜りましたが、不十分な点に関するご指摘は謙虚に受け止め、絶えず改善を図っていききたいと思います。

高校生を中心に約150名の若い世代からも、「自分の将来を考えるきっかけとなった」、「着眼点がユニークで、しかも説得力もあって聞き入ってしまった」、「色々なことに興味をもって、それを追究していくことの楽しさを知ることができた」といった、力強いコメントをいただきました。

最後になりましたが、県立高校への周知、参加者取りまとめなど、様々なご協力を賜りました石川県教育委員会の皆様、連載記事の掲載などを通じて長年にわたり本シンポジウムを支えていただいております読売新聞社のご支援に心より御礼申し上げます。さらに、地方中核都市における初めての開催を成功に導くべく、お力添えをいただいた京都大学本部ならびに同窓会の皆様にも深く感謝します。これからも本シンポジウムを皆様とともに継続、発展させていく所存です。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成29年7月

第12回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 企画担当 井波 陵一（人文科学研究所前所長）

目 次

まえがき

開会挨拶	京都大学総長 山極 壽一	1
------	--------------	---

I 生きる場の風景

講演 1	人はなぜ、森で感動するのか	7
	京都大学フィールド科学教育研究センター准教授 伊勢 武史	
講演 2	森林の『メタボ化』を診断する	27
	生態学研究センター教授 木庭 啓介	
講演 3	地域研究で考えるリアルなアジア	39
	東南アジア地域研究研究所准教授 中西 嘉宏	

質問回答コーナー（午前の部）	55
----------------	----

II 神は細部に宿り給う

講演 4	ウイルス化石が語る生命の進化	63
	ウイルス・再生医科学研究所教授 朝長 啓造	
講演 5	芸術とはどんな〈出来事〉なのか？	79
	こころの未来研究センター教授 吉岡 洋	

III 天地玄黄、宇宙洪荒

講演 6	生命を支える海の微量元素	91
	化学研究所教授 宗林 由樹	
講演 7	ブラックホールだらけの宇宙	103
	基礎物理学研究所教授 井岡 邦仁	

質問回答コーナー（午後の部）	117
----------------	-----

パネルディスカッション	123
-------------	-----

「地上にもともと道はない」（魯迅）

パネリスト：山極 壽一（京都大学総長）

大志万 直人（京都大学研究連携基盤長）

佐々木 節（未来創成学国際研究ユニット長 基礎物理学研究所）

湯本 貴和（ヒトと自然の連鎖生命科学研究ユニット長 霊長類研究所）

梅澤 俊明（グローバル生存基盤展開ユニット長 生存圏研究所）

原 正一郎（学知創生ユニット長 東南アジア地域研究研究所）

司 会：吉川 左紀子（こころの未来研究センター長）

総括・挨拶	京都大学 理事・副学長 湊 長博	143
-------	------------------	-----

〔資料〕 案内チラシ

平成29年4月5日付け 読売新聞記事（大阪本社発行）

*所属・職名は平成29年3月11日現在

I 生きる場の風景

人と自然のつながりを考える
「人はなぜ、森で感動するのか」
「森林の『メタボ化』を診断する」

人と人のつながりを考える
「地域研究で考えるリアルなアジア」

Ⅱ 神は細部に宿り給う

体の仕組みに迫る

「ウイルス化石が語る生命の進化」

心の動きをたどる

「芸術とはどんな〈出来事〉なのか？」

Ⅲ 天地玄黄、宇宙洪荒

地球の豊かさを知る
「生命を支える海の微量元素」

宇宙の謎を解き明かす
「ブラックホールだらけの宇宙」

京都大学 附置研究所・センターシンポジウム

「京都からの提言－21世紀の日本を考える」

- 第1回 平成18年3月16日(木) 10:00~17:30
東京・品川インターシティホール
サブテーマ:「危機をいかに乗り切るか? 東アジアといかに向き合うか?」
- 第2回 平成19年3月17日(土) 10:00~17:00
大阪・エルおおさか(大阪府立労働センター) エル・シアター
サブテーマ:「ノーベル物理学賞受賞者「湯川・朝永両博士が拓いた世界」
～湯川・朝永両博士 生誕百年に因んで～」
- 第3回 平成20年3月8日(土) 10:00~17:15
横浜・新都市ホール
サブテーマ:「人間と自然:新たな脅威と命を守るしくみ」
- 第4回 平成21年3月14日(土) 10:00~17:25
名古屋・名鉄ホール
サブテーマ:「学問のつながりのユニークさ:それがつくる明るい未来」
- 第5回 平成22年3月13日(土) 10:00~17:15
福岡・アクロス福岡
サブテーマ:「グローバル社会に生きる－未来を見据える目」
- 第6回 平成23年7月3日(日) 10:00~18:00
京都・京都大学時計台百周年記念ホール
サブテーマ:「混沌の時代に光を探る」
- 第7回 平成24年3月17日(土) 10:00~17:00
神戸・神戸国際会議場メインホール
サブテーマ:「明るい社会の未来像」
- 第8回 平成25年3月16日(土) 10:00~17:15
北海道・北海道立道民活動センター「かでる2・7」かでるホール
サブテーマ:「科学が見いだす日本の進路」
- 第9回 平成26年3月15日(土) 10:00~17:15
宮城県・仙台国際センター 大ホール
サブテーマ:「社会と科学者」
- 第10回 平成27年3月14日(土) 10:00~17:20
広島・広島国際会議場 国際会議ホール「ヒマワリ」
サブテーマ:「活力ある未来の“想像”と新たな展開を求めて」

「京都からの挑戦－地球社会の調和ある共存に向けて」

- 第11回 平成28年3月12日(土) 10:00~17:10
東京・品川インターシティホール
サブテーマ:「翔ぶ、京大」
- 第12回 平成29年3月11日(土) 10:00~17:10
石川・石川県文教会館
サブテーマ:「^{フリースタイル}自由風格、京大」

京都大学 附置研究所・センターシンポジウム
京 都 からの 挑 戦
(第 12 回)
「地球社会の調和ある共存に向けて」
— 報 告 書 —

発 行 日 平成 29 年 10 月
編集・発行 京都大学人文科学研究所総務掛
住 所 〒 606-8501 京都市左京区吉田本町
T E L 075-753-6902
印 刷 所 双林株式会社

※ 本報告書は、講演等の内容を正確にお伝えできるよう、当日の筆録に
一部修正・加筆を行っております。



京都大学研究連携基盤

- 化学研究所
- 人文科学研究所
- ウイルス・再生医科学研究所
- エネルギー理工学研究所
- 生存圏研究所
- 防災研究所
- 基礎物理学研究所
- 経済研究所
- 数理解析研究所
- 原子炉実験所
- 霊長類研究所
- 東南アジア地域研究研究所
- iPS細胞研究所
- 放射線生物研究センター
- 生態学研究センター
- 学術情報メディアセンター
- フィールド科学教育研究センター
- こころの未来研究センター
- 野生動物研究センター
- 物質－細胞統合システム拠点